

# 収蔵館ニュース

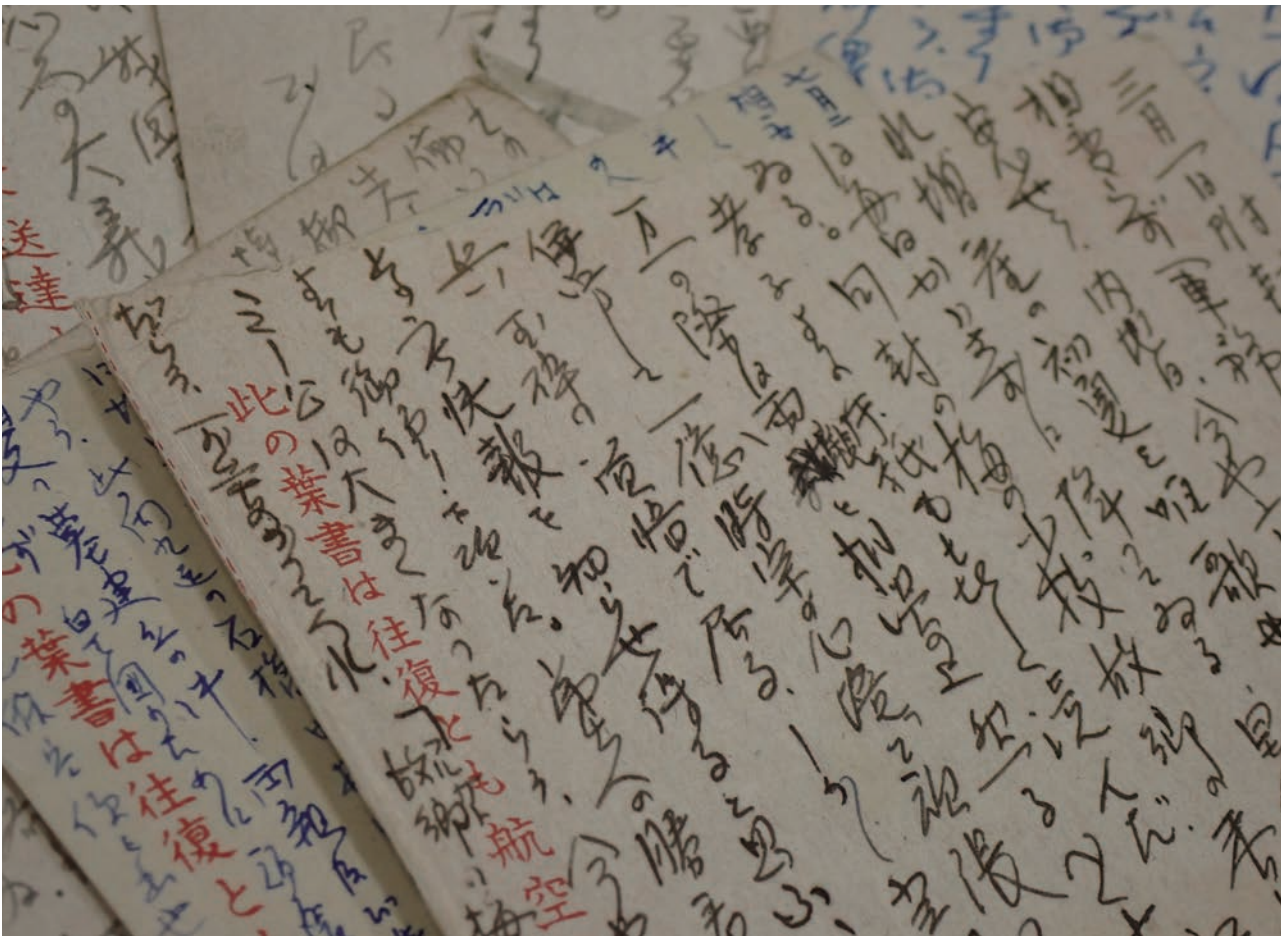
第20号  
(改題通算46号)

K U R U M E C I T Y

2024.3

## ● CONTENTS

- ・新収蔵資料紹介
- ・六ツ門図書館展示コーナー
- ・守り、伝える
- ・活かし、伝える
- ・トピックス  
「久留米藩御用絵師の絵画を展示 ～展示担当者より～」



軍事郵便の一部。文面には「玉砕の覚悟で居る」(写真中央)のほか、「万一の際は両親と相談の上なるべく計れ」、「しかし小生緬甸国境に関する限り心配するな、そのうち快報を知らせ得ると思ふ」などがある。自身の状況や家族への思いが綴られている。

### 新収蔵資料紹介

#### 戦地からの便り

#### 文字に込められた思い

「宮原美奈子氏寄贈資料」

田主丸町出身の軍医・西原肇氏

に関する資料群です。その足跡が、文書・記録・写真・道具という様々な形で残され、彼とその家族が経験した戦争の実態を伝えていきます。総数73点のうち、戦地からの軍事郵便が多数を占めています。

肇氏は、昭和18年(1943)に、ビルマ第一一八兵站病院(へいたん)に軍医として従事し、昭和20年(1945)5月にビルマ・シタン川付近で亡くなりました。

戦地から妻に宛てた46通の手紙には、限られた紙幅に、表現に規制があるなかで、自身の状況や家族への思いが、時に絵や俳句を添えて小さな文字で隙間なく綴られています。

軍事郵便は、戦地と家族をつなぐ唯一のやり取りで、生存を伝える証でもありました。思いのこもったこれらの手紙は、家族によって大切に保管され、この度久留米市に寄贈されました。